

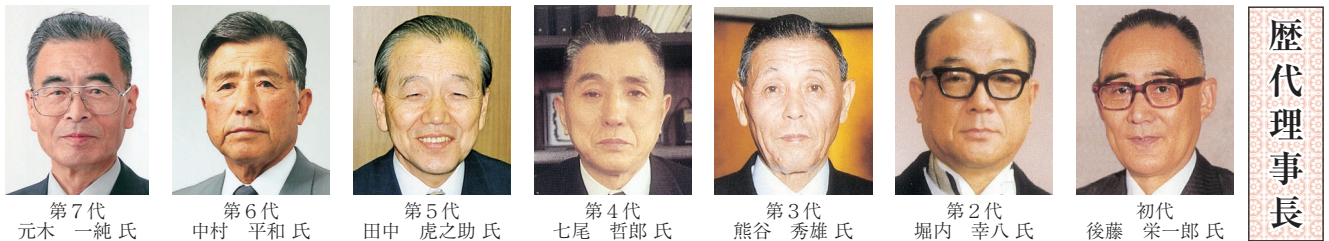


# 青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町 2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323  
URL http://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/2020年7月31日



## 祝 創刊 600 号



歴代理事長

第7代 元木 一純氏  
第6代 中村 平和氏  
第5代 田中 虎之助氏  
第4代 七尾 哲郎氏  
第3代 熊谷 秀雄氏  
第2代 堀内 幸八氏  
初代 後藤 栄一郎氏

「600号発刊を祝して」  
協同組合青森総合卸センター 第8代理事長 西 秀記

卸センターニュースの発行は、小さな一歩の積み重ねではありますが、この度おかげさまで創刊600号を発行することができました。これもひとえに組合員各位はもとより、日頃からお世話になっている関係各位のご理解とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

「青森総合卸センターニュース」が今号で創刊600号を迎えた。当紙は、協同組合青森総合卸センター設立から2年あまり経過後の1970年1月1日に創刊。後藤初代理事長は紙面で「関係機関はもちろん、組合員個々の連絡を一層密にして当卸センターの一大事業である卸商業団地建設を期すために当紙を発刊する」と語っていた。創刊号では竹内青森県知事や奈良岡青森市長から発刊を祝う言葉が掲載されたほか、卸団地の町名を一般公募した結果、理事会で「問屋町」に決定したとも報じていた。創刊時は団地造成工事が急ピッチで進められ、この年の10月に卸団地が完成し、完成式典が盛大に執り行われた。

問屋町造成に乗り出した背景は、高度経済成長期の真只中の1960年代、多くの中小卸売業者は中心市街地に店舗・倉庫を構え、業務拡大による倉庫や駐車場の不足、深刻な交通渋滞に苦慮していた。そこで、以前から卸売業者の経営の合理化・近代化を志し、国内外の先進地視察を重ねていた青森商工会議所副会頭で榎角弘の代表取締役であった後藤栄一郎氏を中心となり、市郊外への卸商業団地建設に動き出した。

後藤氏は「技術革新や交通網の整備により流通機構は急テンポで変革している。しかし、地方の卸業界は企業の体質改善が遅れ、商品の大量化や多様化に対応する施設の整備が追いついていない。その打開策としては、中小卸売業者が共に手をつなぎ協調の精神を発揮して、共同で施設を整備するしか道はない」と説き、市内の卸売業者に卸団地への移転を呼びかけた。42社の卸売業者から賛同を得て、1967年10月に協同組合青森総合卸センターを設立、後藤氏が初代理事長に選任された。

創刊号発刊から51年あまりが経過し、現在の西理事長は8代目にあたる。歴代の理事長らの尽力で当卸団地はハード・ソフト両面で大きく変革し、組合員数135社、団地総面積15万7千坪と北東北有数の流通拠点へと成長。青森総合卸センターニュースでは、その変化や新たな取り組み等を組合員はもとより、県、市、全国の卸団地等の関係機関へ広くPRしてきた。今後も、創刊時の「組合員個々の連絡を一層密にする」目的を忘れず、問屋町の更なる発展を目指して広報活動を続けていく。

### 防災訓練の実施と承認

#### 第3回理事会

6月22日(月)に第3回理事会が開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また事務局からは、青森県

流通団地連絡協議会が実施した「新型コロナウイルス」に関する緊急アンケートの調査結果や北日本流通ヴァン(株)の2019年度決算などについて報告した。

主な案件審議は次のとおり。

案件一 環境対策委員会からコロナ対策を講じた上での

### 青森交通安全協会問屋町支部 第47回定時総会

青森交通安全協会問屋町支部の第47回定時総会が行われた。同総会は新型コロナウイルス感染防止のため書面議決方式で開催され、提出案件がすべて原案どおり承認された。

昨年9月に問屋町内交通死亡事故ゼロ8千日を達成した同支部では、2020年度は更なる記録更新に向けて交通安全運動を推進。具体的には、道行くドライバーに安全運転を呼びかける「問屋町交通安全街頭指導」を7月から10月

防災訓練の実施やパソコンリサイクル回収事業の回収日変更について承認された。

案件二 組合員の脱退及び既存組合員の土地買増承認について

案件三 賃貸組合員の脱退について

案件四 組合員跡地買取資金の借換について

案件五 2020年度の役員報酬について

案件六 2020年度第4回理事会の日程等について

理事会終了後には、青森問屋町配送(株)の第40回定時株主総会が開かれ、提出案件が全て原案どおり承認された。

まで月1回実施する。ただし、コロナ対策で例年実施しているチラシ等の配付は行わない。他にも運転記録証明書を活用した「問屋町交通安全無事故・無違反コンクール」を開催して安全運転意識の高揚を図り、事故防止に活かしていく。

また、同支部では新たな取り組みとして近隣小学校への交通安全グッズ寄贈を企画した。これまでは死亡事故ゼロ達成記念事業として実施してきたが、地域貢献活動の一環として今年度からは毎年寄贈

していくこととした。

### 2019年度リサイクル事業収益金を寄贈

組合では、2019年度のリサイクル回収事業で得られた収益金を福祉団体等へ寄贈した。同寄贈は今回で6年目となる。

6月10日(水)に、空き缶・ペットボトル回収事業で得られた収益金5万円を青森市社会福祉協議会へ寄贈。組合の西理事長が同協議会を訪れて窪田会長に目録を手渡し、リサイクル事業の概要や実績などを紹介した。

### 花いっぱいプロジェクトで問屋町の景観向上

組合では、昨年度に引き続きフラワーボックスの無料配付を実施した。今年度は新たに11社から申し込みがあり、オリジナルデザインのプランターに色とりどりの花苗が寄せ植えされたフラワーボックスが組合員の敷地に置かれた。

また、6月9日(火)には問屋町花の植え方教室が開催され組合員従業員12名が参加した。問屋町の景観美化を推進すべく、組合員の意識高揚を目的に始まった同教室は今

の収益金3万円を、パソコンの解体作業を行っている青森市の障がい者施設に寄付した。当日は大平環境対策委員長が施設職員へ目録を贈った。



西理事長(右)が目録を手渡す

組合ではリサイクル事業に積極的に取り組んでおり、近年では排出されるごみの6割以上がリサイクルされている。これからも企業の社会的責任(CSR)の一環として資源リサイクルを推進し、社会福祉に貢献すべくリサイクル回収で得られる収益金の寄付活動も継続していく。



大平委員長(左)が施設を訪問

年で3回目の開催となる。

教室では、問屋町の景観アップバイザーであり問屋町フラワーボックスをデザイン・作成した鈴木野波氏が講師を務めた。参加者はプランターに入れる土の量や植える花苗のバランス、寄せ植え後の管理



組合員施設に設置されたフラワーボックス

方法などを学び、各自で作成したフラワーボックスを持ち帰った。

問屋町花いっぱいプロジェクトの推進により、近年、問屋町の景観は飛躍的に向上。今後も組合員の協力を得ながら積極的に取り組んでいく。



花の植え方教室

## 事務機・事務用品の総合商社

〒030-0113  
青森市第二問屋町三丁目3-34  
株式会社 金入 青森支店



KANBARI

TEL 017-739-9001  
FAX 017-739-9011

## 循環型社会を目指して……

製紙原料問屋・段ボール・古新聞・古雑誌  
・機密文書リサイクル



http://shinwa-sangyou.com

青森中央営業所 青森市問屋町 2-12-14  
青森西営業所 青森市油川字岡田 122  
本 弘前市堅田 1丁目 4-2  
TEL (017) 764-2755  
TEL (017) 787-3455  
TEL (0172) 35-5255



23510002



エコアクション21  
認証番号0002795

### パソコンリサイクル回収事業回収日変更

パソコンリサイクル回収事業の回収日が8月から変更となる。

組合では、組合員のパソコンリサイクル費用の低減及び資源リサイクルの推進、分解作業に携わる障がい者雇用創出への支援を目的に2013年から同リサイクル事業に取り組んできた。

開始当初は年間で千台を超えるパソコンがリサイクル回収されていたが、近年は回収量が落ち着いてきた。そこで、これまで2カ月に1回だった

回収頻度を3カ月に1回に変更することとした。

#### 【変更内容】

- ▽回収日  
2月、5月、8月、11月の  
第四水曜日(3カ月に1回)
- ▽次回回収日  
2020年8月26日(水)



パソコンリサイクル回収

### 業務報告

#### …主要事項…

- 6月
  - 3日▽第1回献血
  - 9日▽第1回集団健康診断 (11日)
  - 10日▽空き缶等リサイクル回収
  - 12日▽パソコンリサイクル回収
  - 15日▽金融審査会
  - 16日▽第1回環境対策委員会
- 18日▽第3回問屋町合同清掃
- ▽北日本流通ヴァン(株)第31期定時株主総会・第1回取締役会
- 19日▽安協問屋町支部第47回定時総会
- 22日▽第3回理事会
- ▽青森問屋町配送(株)第40回定時株主総会・第2回取締役会
- 23日▽第1回問屋町地区健康診断
- 28日▽第1回問屋町緑のボランティア隊
- 30日▽問屋町支店長・所長連絡会第13回定時総会

### 経済雑感

#### 第一〇七回

青森商工会議所 専務理事 葛西 崇

前号に引き続き、青森商工会議所の葛西専務理事による経済雑感をお送りする。

今回は、「ポストコロナ」、「アフターコロナ」として、ピンチをチャンスに変えるという視点から所見を述べてみたい。

新型コロナウイルス感染症拡大によって経済活動が大きく制約され、飲食業、宿泊業、運送業をはじめ、多くの分野で甚大な影響を受け、必死な思いで踏ん張っている方がたくさんいる。事業者の皆様にはあら

ゆる支援ツールを有効に活用していただき、現下の苦境を乗り切っていただきたいと切に願っている。

このような中、「ポストコロナ」として、これからの地方創生のあり方、方向性について考えてみる。



青森商工会議所 専務理事 葛西 崇 氏

地方においては、急速な少子高齢化、人口減少に加えて、地域の将来を担うべき若者の首都圏への流出という構造的な課題を抱えてきた。このことよって、人財確保難や消費支出の減少など様々な面で地域経済社会に影響を及ぼしている。

そこで、いわゆる「コロナ」問題を契機に、首都圏一極集中を是正し、地方へのオフィス分散などを国主導で大胆に行っていくべきではないかと思う。それは、我が国の持続的発展のためにも必要なことである。実際、首都圏の企業では、オフィスの賃料コストや通勤、出張のための移動コストなど相当な費用を負担している。地方でのリモートワークが可能となれば、首都圏と比べて通勤時間も大幅にカットできるだけでなく、ゆとりある環境で仕事ができ、まさに社会全体の働き方

や生活習慣、価値観を見直す機会ともなる。折しも、青森市では、「公共空間の新たな価値の創出」をめざし、リノベーションの施策も進められていて、この機会にリモートワークの受け入れ環境の整備を加速させるべきであると考え。人の流れが変わることで、クリエイティブな産業創出や付加価値の高い産業形成にもつながっていくかもしれない。そのことが、地域経済社会全体に幸せをもたらすローカルイノベーションとなり、地方創生の新たな姿が描かれていくのではないかと思う。

(未完)

豊かな住宅環境と快適な暮らしを追求します



青森支店 TEL 017-739-4551 FAX 017-739-4145  
弘前・八戸・大館・仙台・秋田



積水ハウスグループ

積和建設の在来木造住宅新築  
積和建設のリフォーム

戸建・マンション・店舗  
一般木造・鉄骨造・コンクリート造・その他  
積和建設東北株式会社 青森事業所  
〒030-0131 青森市問屋町1丁目13-10 TEL 017-764-3622



営業用食器・厨房設備・器具専門商社

Kitchen and Table Communication

PRIMO Co., Ltd.

株式会社プリモ

青森店 青森洋食器

〒030-0113 青森市第二問屋町3丁目3-8  
TEL.017-739-9355 FAX.017-739-9359

### 元木商店が水耕栽培 セット寄贈

組合員の(株)元木商店が県内の老人ホームや介護施設を対象に、無料で水耕栽培セットを贈る「コロナに負けるな！水耕栽培プレゼントキャンペーン」を始めた。

同事業は、同社が代理店として取り扱う水耕栽培商品を活用して、コロナ禍で外出機会が減っている施設利用者が室内で少しでもアウトドアな気分を楽しんでもらいたいと企画した。7月31日まで寄贈先を募集し、先着15施設に達し次第終了となる。

6月24日(水)にはキャンペーン第1号として、同じく

組合員の(株)アピイに水耕栽培セットとレタスの種を寄贈。当日は同社が運営する住宅型有料老人ホーム「アピイタオレ」で寄贈式が行われ、元木商店の元木社長からアピイの阿部部長に栽培セットが贈られた。



元木社長(左)が栽培セットを手渡す

### 色鮮やかな花苗を植える 問屋町緑のボランティア隊

問屋町緑のボランティア隊の今年度1回目となる活動が6月28日(日)に開催され、同隊員30名が参加した。

今回は問屋町東口及び第二問屋町北口の花壇に、マリーゴールドやインパチェンスなどの色鮮やかな花苗660株を植栽した。花苗は青森市(青森市地域花いっぱいまちづくり事業)から一部支給。隊員は慣れた手つきで丁寧に花苗を植え、作業は1時間ほどで終了した。

問屋町緑のボランティア隊は、問屋町の景観美化推進を図ることを目的に2006年



問屋町緑のボランティア隊

に結成。花苗植栽のほか街路樹下枝刈り払いなどを行う。子供でもできる簡単な作業が見られる。隊員は随時募集しており、興味のある方は、卸センター事務局まで。(☎738-4711)

### 団地企業訪問

今回の団地企業訪問は、今年4月に赴任された、(株)みちのく銀行問屋町支店の神支店長にお話を伺った。

同行の取り組み等について尋ねると、「当行では『活気ある職場づくり』を主要テーマとした4つの新施策を導入しています。1つ目は『ドレスコードの見直し』として服装を一部自由化しました。これにより男性は通年でノーネクタイでもよくなり、

女性も課長以上と外回りは役職が付かなくても服装が自由になりました。服装の多様化により、個性を尊重し柔軟な発想が生まれやすい環境を作ります。2つ

目は「さん付け呼称運動」として行内での役職呼称の廃止です。世代間や上下関係の壁をなくしましょうという考えです。3つ目は『フレックスタイム勤務制度』を導入しました。窓口担当は9時から15時までは必ず出勤していただき、融資担当と外回り担当は効率的な時間配分が可能となります。ただ、銀行は9時から全員揃っているというイメージがあるので、お客様にはしっかりと段取りを付けたり、支店内でのコミュニケーションを取っていかねばならないと思います。4つ目は『テレワーク制度の



みちのく銀行 問屋町支店 青森南エリア統括 支店長 神 篤人 氏

問屋町支店で取り組みたいことについて聞くと「4月から問屋町支店が4つの支店の統括店になったことで、線路から南側の広い範囲が担当エリアになりました。飲食店を含む企業の数も増えました

ので、エレベーターや休憩時間も別々にして一緒ににならないように徹底してまいります」と語る。

が、今後はより取引先を増やしていきたいです。また、以前は支店の大きな窓にポスター用のパネルが貼ってありましたがそれを全て撤去し、中からも外からも見える・見られるように変え、入りやすい銀行を目指しています」と話す。

プライベートについて話が及ぶと「函館の自宅でチワワ2匹を飼っていて、たまに帰ると玄関まで出迎えてくれるのが嬉しいですね。単身赴任中のパートナーと会社の机に写真を置き、疲れた時はそれを見て癒されています。健康管理に気を付けているので「若い支店長が来たね」と言われることがとても嬉しいです」と笑った。(51歳)

### 編集後記

今号は記念すべき600号となりました。「青森総合卸センターニュース」が創刊したのが1970年1月1日です。から創刊から実に50年になります。私が卸センターニュースは、これまでプロに外注してきました。この50年、担当を務めてきた歴代職員に感謝すると同時に、誇りを感じます。また、これまで卸センターニュースを広告で支えていただいた組合員・関連会社の皆様に感謝いたします。卸センターニュースは、これまで百号ごとに合本を二部作成し、一部は組合保存、一部を青森県立図書館に寄贈してきました。今回も発刊後501号から600号を合本しますが、これも貴重な地域経済史になっていると思います。一面とは違い編集後記ではトピック的に600号を振り返ります。

卸センターニュースの編集長は歴代専務が担当です。初代が故・田中専務、二代目が故・佐藤専務で三代目が私です。しかし、実質実務は編集担当がしており、西田業務課長が2009年5月号から11年に渡りハードな編集担当を務めてきました。このたびの百号分は全て西田業務課長によるものです。ご苦勞様でした。編集後記ですが、2008年2月号から私が担当して12年です。編集後記以前は、東奥日報社のプロ記者であった故・岡部建設氏が1984年6月号から2007年10月号まで23年の長きに渡り巻頭コラム「あきない欄」として担当されたものです。▼プロ記者の後を受けての編集後記で、ボリュウムは四百字詰め原稿用紙一枚半くらいなのですが、毎月となると中々です(藤本)

家庭の銀行

問屋町支店

☎017-739-1100

TOM AND JERRY and all related characters and elements © & ™ Turner Entertainment Co. (S20)

あなたの暮らしに近くて便利!

セブン-イレブン

青森問屋町1丁目店

〒030-0131  
青森市問屋町1丁目9番22号  
電話/FAX 017-728-7717